



まんだらげ

広報誌「まんだらげ」の名称について

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲が全身麻酔薬として用いた植物「曼陀羅華(まんだらげ)」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学の校章にも採用されています。

2019 WINTER Vol.47



田原の朝霧（串本町）

Contents

- 特集Ⅰ …… がんゲノム医療
- 特集Ⅱ …… 和歌山県立医科大学附属病院におけるリハビリテーション医療
- NEWS …… 患者さんに優しい病院づくり
- Topics …… 研究①～⑤
食事と健康Q&A
- Information …… 市民公開講座
中学生の職場体験学習
公開講座・カンファランスのお知らせ

理念

私達は安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

基本方針

- 1 患者さんとの信頼関係を大切に、十分な説明と同意のもとに、安全で心のこもった医療を行います。
- 2 高度で先進的な医療の研究をすすめ、その成果を反映した医療を行います。
- 3 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
- 4 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。

がんゲノム医療



がんは遺伝子の変化によって引き起こされる病気です。同じ臓器に発生しても、がん細胞の遺伝子に生じている変化は患者さんごとに異なります。現在、こういった患者さんごとのがんの遺伝子情報に基づき、個々に最適な治療を行う「がんゲノム医療」が導入され始めています。今回は「がんゲノム医療」、そして10月に当院に開設した「がん遺伝子検査外来」について紹介します。

1 ゲノムとは

細胞の中に存在する染色体には、DNAが含まれています。DNAは、これをもとに細胞が複製される、いわば個人のからだの設計図です。DNAのもつ全ての遺伝情報のことをゲノムといい、これは遺伝子「gene」と「全て」を意味するラテン語の「-ome」から合成された言葉です。

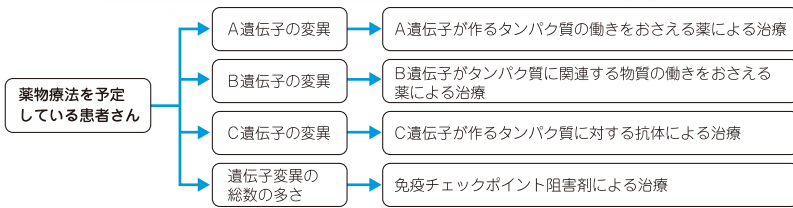
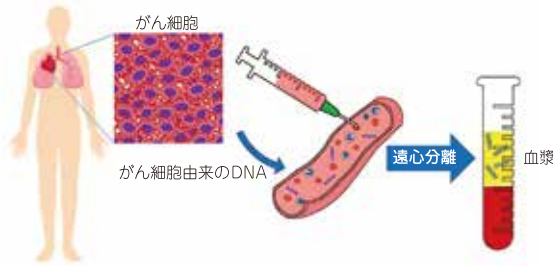
遺伝子とは、DNAの中でも「個人の特性」を伝える特定の領域のことを意味します。そして「がん細胞」は、がん細胞に特有の遺伝子の変化（変異）を持つことがあります。

2 がんゲノム医療とは

これまでがんの治療は、がんが発生した臓器に基づいて行われてきました。現在、それらのがんを性質別に分類して、それぞれのグループに合った治療が提供されていますが、患者さんひとりひとりにオーダーメイドされた治療の選択は未だ十分ではありません。昨今、がんに関連する多くの遺伝子に発生した変異を一度に解析する「多遺伝子パネル検査」が登場し、治療に結びつく遺伝子変異の有無によって薬を選択する試みが行われています(図

1)。このような遺伝子の変異に基づく医療を「がんゲノム医療」と言います。「がんゲノム医療」の中心となるこれらの検査は、米国ではすでに日常的に使用されています。検査を受けた37～86%のがん患者さんに何らかの治療につながる遺伝子変異が見つかり、およそ11～13%の患者さんには変異に合った薬が見つかっていて、中にはそれらの薬が効いたというがん患者さんの報告もあります。

図1



2017年10月に策定された国の「第3期がん対策推進基本計画」では、「がんゲノム医療」の充実は特に中心となる目標の一つとなっており、2018年2月には国内11か所に「がんゲノム医療中核拠点病院」が、そして4月には和歌山県立医科大学を含む国内100施設が「がんゲノム医療連携病院」に指定されています。

3 がん遺伝子検査外来について

当院では今年の10月から「がん遺伝子検査外来」を開業しています。この外来は前述の多遺伝子パネル検査を用いてがんの遺伝子変異を検出し、その結果に基づいた薬（臨床試験含む）の情報提供を行うことを目的としています。当初は国立がん研究センターが開発したがんの腫瘍組織と血液を用いたパネル検査である「NCCオンコパネル」を臨床研究の一環として提供していましたが、現在は血液中に存在するがん細胞由来の遺伝子変異を検出する「Guardant360」という検査方法を導入し、進行したがんの患者さんを対象に検査を行っています。この検査は20mLの血液のみで実施が可能であり、実際

のがん組織がなくても実施可能なこと、患者さんの状態に応じて繰り返し検査ができることが強みです。

これらの検査で見つかった遺伝子変異が治療につながるかどうかを適切に判断するため、がん治療に精通した外科医や内科医・放射線科医・病理医といったこれまでの診療チームに、遺伝情報の専門家も加わって検討を行います。また、検査を行うと6～16%の患者さんには「遺伝するがん」の原因となる遺伝子変異が偶然見つかることがありますので、そのような患者さんに適切に対応するため、遺伝の専門医や遺伝カウンセラーといった遺伝専門家とも連携しています。

4 今後の展望

「がんゲノム医療」において大きな役割を担うこれらの検査は、オーダーメイドのがん医療の提供を理想としています。その一方で、この検査による遺伝子変異の情報に基づいた治療を受けられる症例はまだ5～10%程度に過ぎないという報告もあります。検査を行っても遺伝子変異が検出されなかったり、遺伝子変異が検出されてもそれに合った薬が存在しなかったり、薬は存在しても日本の保険制度上では使えなかったりすることなどが主な原因です。見つかった遺伝子変異の情報を何らかの治療に繋げるために、新しい薬の迅速な開発や、最新の薬の情報を遅れることなく入手・紹介できるような体制づくりが急ピッチで進んでいます。将来このような課題が克服できれば、がんの遺伝子変異の情報に基づいたオーダーメイドのがん医療がさらに身近なものになることが期待されます。



記者発表する呼吸器内科・腫瘍内科 山本信之教授

1 リハビリテーション科とは

リハビリテーション科とは何をしている診療科なのだろうとお考えの方も多いと思いますが、リハビリテーション科は患者さんを元気に活動的にする診療科です。例えば、脳梗塞や脳出血になったとき、救命的な治療は脳神経外科・内科などで行いますが、救命治療と同時に、麻痺などに対して歩けるように、また、言語が出るようにするな

ど、日常生活で困らないように訓練するのがリハビリテーション科です。また、がんの治療のために手術を受けたとき、手術が成功したとしても、体力と筋力が衰え、歩けなくなると困ります。そのようなことがないように術前から十分に体力と筋力を増強し、術後早期からリハビリテーション治療をするのも我々の役割です。

2 リハビリテーション科の診療内容

脳梗塞や脳出血の発症後に、神経の麻痺や筋肉のつっぱり等により体が動かしにくくなるといった後遺症が生じることがあります。筋肉のつぱりの主なものとしては、肘の屈曲変形や内反尖足変形があります(図1)。リハビリテーション科ではこういった患者さんに対しても、装具を使用した歩行訓練を中心としたリハビリテーション治療を行っています。また、最近では、固まった筋肉を柔らかくする注射が開発されています。足の変形で歩けなく

なったり、痛みがあるとき、歩けないとあきらめる前にリハビリテーション科を受診してみてください。

また、運動器障害についてもリハビリテーション科で治療できます。頸や腰の痛み、肩・肘などの関節痛にお悩みの方は、まず整形外科にかかると思います。まだ手術する時期でないと言われたときは、薬物療法に加えて物理療法や運動療法を施行します。手術療法をすることになれば、術後も運動療法中心のリハビリテーション治療をすることになります。障害をお持ちの方もリハビリテーション科にかかっていたいただければ、障害を軽減する方法が見つけれられる可能性があります。

肘の屈曲変形



内反尖足変形



図 1



院におけるリハビリテーション医療

3 当院のリハビリテーション医療

当院では、入院された患者さんの3人に1人はリハビリテーション科を受診します。入院により体力・筋力が弱ることによって寝たきりになってしまうことを防ぐのはもちろんのこと、投薬や手術療法の効果を最大限にあげるためです。例えば、術後早期に歩行や日常生活訓練をし、「手術は成功したが寝たきりになった」ということを防ぎます。つまり、治療だけでなく、豊かな生活に戻ってもらえるようにするということです。

当院は大学病院であるため、急性期の患者さんが多く、重症な患者さんでも積極的に理学、作業、言語療法を行います。急性期から訓練を行うことで、全身の状態を良くすることができます。したがって、集中治療室で人工呼吸器を使用した治療を受けている患者さんでも身体を起こして運動、食事及び言語の訓練を行います。急性期に十分なリハビリテーション治療を受けられなかった方や「他院では実施が困難な重症患者さんに対するリハビリテーション治療」も引き受けています。

当院のリハビリテーション科の特徴は、障害に精通したリハビリテーション科医が患者さんを総合的に診察・診療し、各分野でのエキスパートである理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師がリハビリテーション治療を行っていることです。義肢装具士の協力も得られるほか、ソーシャルワーカーや保健師、ケアマネージャーも参加しています。

また、リハビリテーション科の医師は「障害者のかかりつけ医」であり、定期的なメディカルチェックも行っています。慢性期の患者さんであっても、何とか歩けるようにならないか、在宅では何をすれば良いかといった疑問

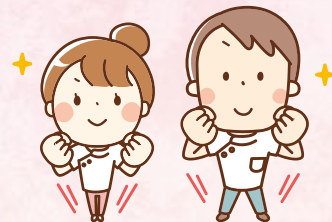


0歳から100歳を超える方まで対象です。
対象となる疾患も様々です。リハビリテーション治療は大変でも笑顔になります。

にもお答えしています。

リハビリテーション科の本質は人間総合医療です。したがって、診断に基づいてリハビリテーション治療を行うのは当然ですが、摂食・嚥下障害、排尿・排便障害、運動機能障害、高次脳機能障害、義肢・装具・生活補助具、福祉など、様々な問題に対しても対応しています。装具療法、薬物療法、神経ブロック、ボトックス注射、手術治療など、あらゆる手段を駆使して治療を行っています。さらに、健康者から障害者まで、健康スポーツから競技レベルまでのスポーツの医科学的指導も実施しています。

リハビリテーション医療は患者さんの活動性を改善する新しい医療です。医学の進歩により救命・延命が可能になった疾患は多くなりました。しかし、多くの方が単なる延命よりも、元気な状態での長寿を望んでいます。これからは多くの皆さまの活動性を改善していきたいと考えています。



患者さんに優しい病院づくり

患者相談窓口の改修 完了！！

患者相談窓口の改修工事が完了し、11月1日から新装オープンしました。

「入りやすい」「声をかけやすい」をコンセプトに、入口のドアを大きく改修しました。ドアの色も和歌山の特産であるみかんをイメージして、また「がん相談支援セン

ター」のイメージカラーである「オレンジ」を採用しました。

患者相談窓口の中は、3つの相談ブースを備え、患者さんやそのご家族の相談をお受けしています。また、個室も準備し、プライバシー保持に努めています。どんなことでも、まず「患者相談窓口」にご相談下さい。

患者相談窓口

病気になって生じる様々な問題や心配事についてご相談に応じます

1. 医療費について
2. 療養生活・転院先について
3. 利用できる社会保障制度について
4. セカンドオピニオンについて
5. 就労について
6. 医療の安全について
7. 先進医療・治験・臨床研究について
8. 学生の臨床実習について



院内の案内表示が新しくなりました！

当院では、患者さんに目的の外来等へスムーズにお越しただけるよう院内の案内表示をより分かりやすく改善しました。

各外来の受付には、各診療科の特徴を視覚的に表したピクトグラムを新たに設置するとともに、エレベーター前や通路の交差点の床面には、各外来等への経路を示す案内表示を設置しました。

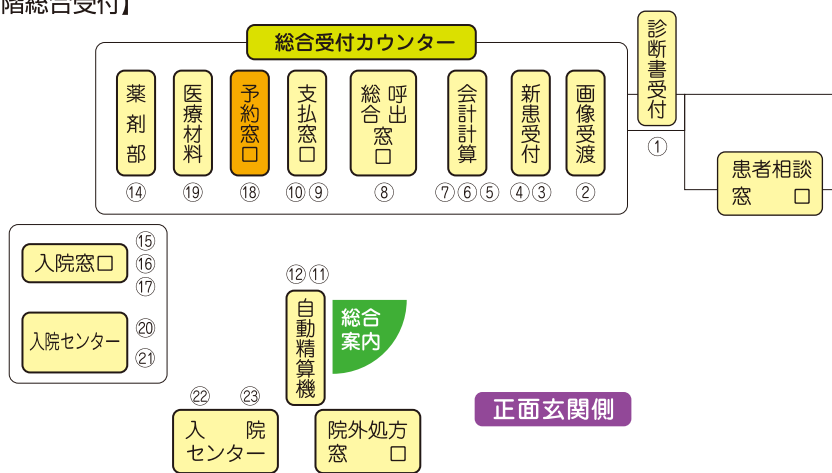


ピクトグラム例



床面の案内表示

【2階総合受付】



正面玄関側



治療や手術などで入院や外来受診される患者・家族の皆さんの不安や迷いをなくし、安心してそれぞれの目的に進めるように、当院では「患者支援センター」を設置して、多職種協働による切れ目のない**ワンストップサービス**(*)を心がけています。また、当センターの中に、「入院センター」を2017年12月に開設し、外来通院中、

あるいは入院前から退院後まで一括して患者さんを支援しています。

これからも、人・地域・様々なサービス、そして優しさをつなぎ、患者さんやそのご家族をサポートしていきます。

*ワンストップサービスとは：関連するすべての事項・手続きを、一度で、あるいは1ヶ所で完了できるようにするサービス

入院センター

入院センターでは、入院前の支援として以下の支援を行っています。

- ① 入院前の生活状況の確認
- ② 入院前に利用していたサービスの確認
- ③ 認知機能の確認
(薬剤部にて：持参薬の確認)

つなぐ

すべては、患者支援センター内の
「患者相談窓口」「入院センター」
からつながります



また、各案内の表記については、日本語だけではなく、英語及び中国語も併記し、外国人の方にも分かりやすい案内表示としました。今後もよりいっそう患者さんに優しい病院づくりを目指していきます。

診療科名等の変更のお知らせ

10月1日から下記のとおり診療科名やセンターの名称を変更しています。

神経内科

↓
脳神経内科

耳鼻咽喉科

↓
耳鼻咽喉科・頭頸部外科

化学療法センター

↓
外来薬物療法センター



研究①

静脈血栓融解の分子メカニズムの解明

血栓とは血管内にできた血のかたまりのことです。この血栓が肺に血液を送る肺動脈につまると、「エコノミークラス症候群」として知られる肺動脈血栓塞栓症となり、突然死を引き起こすこともあります。血栓ができる要因としては、血管内皮の損傷、血流の停滞、凝固能の亢進(血液が固まりやすくなること)の3つが挙げられます。



健康な人は血液の凝固機能と線溶機能(固まった血を溶かす機能)のバランスが取れていますが、線溶が抑制されてバランスが

崩れると血栓ができやすくなります。

法医学講座の近藤稔和教授は、白血球で産生されるサイトカインというタンパク質の一つである TNF- α (腫瘍壊死因子)に着目し、マウスを使った実験を行い、TNF- α と結合するレセプターの働きを抑えたマウスでは、血栓が通常のマウスより大きくなることを確認しました。このことから、TNF- α の活性がないと線溶系が抑制され、血栓ができやすくなることが明らかになりました。

これまでの血栓を溶かす薬は、出血時に血が止まらなくなる可能性がありましたが、TNF- α は血液の凝固作用は失わないという利点があるため、今後、TNF- α と結合するレセプターをターゲットにした研究を行うことで、新規治療法の開発につながる可能性があります。

研究②

新しいオピオイド鎮痛薬の開発 -安全かつ依存性のない鎮痛薬-

オピオイド鎮痛薬(モルヒネ、オキシコドン、フェンタニルなど)は、術後痛やがん性疼痛などの緩和のために使用されていますが、精神的・身体的な依存、耐性、かゆみ、便秘および呼吸抑制などの有害作用が課題となっています。依存については、アメリカでオピオイド鎮痛薬の過剰摂取による死者が多数にのぼるなど、特に問題となっています。

そのようななか、薬理学講座の岸岡史郎教授、木口倫一講師らの研究グループでは、サルを用いた実験により、モルヒネのおよそ100倍の鎮痛効果があり、依存や耐性が生じにくく、かゆみや呼吸抑制などの有害作用もほとんどない新しい化合物「AT-121」を開発しまし

た。この新しい化合物は、従来のオピオイド鎮痛薬が作用していた μ オピオイド受容体と、それと同じ種類に属する「ノシセプチン受容体」の両方に弱く作用することで、鎮痛効果が相乗的に高まるとともに、上記の有害作用が軽減されることを報告しています。

今後は、安全かつ依存性のない鎮痛薬の実用化に向けた研究が進められる予定です。



記者発表する岸岡史郎教授(右)と木口倫一講師(左)

研究③

梅の抗アレルギー作用 -細胞・動物実験と住民調査による研究-

梅を医学的に研究している機能性医薬食品探索講座の宇都宮洋才准教授らは、これまでも梅の肥満予防、インフルエンザウイルスの増殖抑制、骨粗しょう症予防などの機能性について明らかにしていますが、今回、梅にはアレルギー症状を抑える成分も含まれていることを確認しました。研究にあたっては、まず、地域医療支援



センターの北野尚美助教らが、みなべ町などの住民約600人を対象とする

疫学調査を行いました。その結果、特に女性で、梅干しの高摂取群は低摂取群よりアレルギー症状を有する人の割合が低いことが分かりました。その後、抗アレルギー作用がどのように発揮されているかについて、マウスへの梅抽出物の経口投与により調べたところ、梅抽出物の成分により、アレルギー反応に関与する肥満細胞の脱顆粒が抑制されていることを明らかにしました。

また、培養した肥満細胞に梅抽出物を注入し、脱顆粒を抑制する成分について調べたところ、バニリン、シリンガ酸など5つの物質を同定することに成功しました。

梅の摂取によるアレルギー症状の予防・改善の可能性が見い出されたことを受け、今後はさらに詳細な疫学調査を実施していくこととしています。

記者発表する研究グループ(機能性医薬食品探索講座、地域医療支援センター、大阪河崎リハビリテーション大学、和歌山工業高等専門学校)

研究④

神経麻痺性角膜症の原因解明と治療展望

神経麻痺性角膜症は、顔面の感覚や痛みをつかさどる三叉神経が糖尿病や外傷などにより傷つくことで、角膜上皮の障害として発症します。角膜の傷は治りにくくなり、傷が治っても角膜に混濁が残り、これまでに決定



的な治療法はありませんでした。

この神経麻痺性角膜症について、眼科学講座の雑賀司珠也教授は、三叉神経を傷つけた神経麻痺性角膜症モデルのマウスを用いた研究を行い、黒目と白目の境目である輪部の幹細胞の増殖が抑制されていることを確認し、これが角膜の傷が治りにくい原因であることを発見しました。

また、神経麻痺性角膜症モデルマウスでは、「TRPV4遺伝子」が減少していたため、傷つけられた三叉神経に同遺伝子を注入したところ、輪部の幹細胞の増殖が復活したことから、同遺伝子が三叉神経の幹細胞の働きに重要であることを明らかにしました。

この研究により、幹細胞の役割が解明されたことで、幹細胞に着目した研究が加速することが期待されます。

研究⑤

早産におけるケモカインの役割解明と治療展望

早産とは妊娠37週未満での出産を指します。早産で生まれた赤ちゃんは、脳内出血や呼吸障害、未熟児網膜症などの合併症を引き起こす可能性が高くなります。早産の原因としては、感染症、体質、多胎妊娠などが挙げられますが、早産で生まれる赤ちゃんの予後を改善するためには、早産そのものを減らすことが重要です。これまで早産の治療は、子宮収縮抑制剤を使用してきましたが、早産の減少にはつながっておらず、新たな治療法の確立が求められています。

そのようななか、法医学講座及び産科・婦人科学講座の研究チームは、免疫細胞の遊走に関与するタンパク質であるケモカインシステム CX3CL1-CX3CR1系を制御することが早産の進行を抑制するということが明らかになりました。野生型マウスと CX3CR1 遺伝子欠損マウ

スの早産率を比較したところ、野生型マウスでは85.7%、CX3CR1 遺伝子欠損マウスでは12.5%となり、CX3CR1 遺伝子欠損マウスでは、子宮への白血球（マクロファージ）の集積及び早産を誘発する生理活性物質の産生が抑えられていることが確認されました。

このことにより、早産の新規治療法の開発の可能性が示唆されました。



記者発表する
石田裕子講師(右、法医学)と溝口美佳助教(左、産科・婦人科学)

食事と健康 Q&A



Q 骨を強くするためにはどのようなことに気をつければ良いですか？

A 食事や運動について、以下の点を見直してみましょう。

- ① **カルシウムの摂取**: カルシウムは骨のもととなります。乳製品のほか、大豆製品や骨ごと食べる小魚(めざし、ししゃも、しらすなど)、小松菜などの青菜類に多く含まれています。
- ② **ビタミンDの摂取**: カルシウムの吸収を促進します。魚類やきのこ類、卵に多く含まれています。また、適度に日光を浴びると体の中である程度作り出すこともできます。
- ③ **ビタミンKの摂取**: 骨の健康維持に関わります。納豆や海藻類、緑黄色野菜に多く含まれます。
- ④ **適度な運動**: 骨は負荷がかかるほど強くなる性質があります。散歩や階段の上り下りなど日常生活の中でできるだけ運動量を増やしましょう。

市民公開講座



「口内炎と思っていたら…」

～お口の中の異変、がんかもしれません～

歯科口腔外科学講座主催、和歌山市医師会・和歌山県歯科医師会・和歌山県歯科衛生士会共催の市民公開講座を平成30年9月9日に開催し、歯科口腔外科学講座の藤田茂之教授、東條格講師及び鈴木滋助教が講演を行いました。

単なる口内炎と思っていたら、実際は違う病気であったり、口の中の「がん」であったということがあるため、今回はその一つ「口腔粘膜疾患(こうくうねんまくしっかん)」について取り上げました。「口腔粘膜疾患」とは、口腔粘膜に肉眼で変化を認める疾患で、口内炎もその一つです。口腔粘膜には、動く粘膜である①被覆粘膜(口唇や頬粘膜など)、動かない粘膜である②咀嚼粘膜(歯肉など)、③特殊粘膜(舌の表面)の3種類があり、正常な口腔粘膜はピンク色をしています。口腔粘膜は、



①飲食物や入れ歯などによる刺激が常にあり、②表面構造が単調、③約700種にもおよぶ口腔内常在菌の影響がある、といった他の粘膜にはない特徴があります。それでは、口腔粘膜疾患は「がん」ではないのでしょうか?答えは「がん」ではありません。「がん」ではありませんが、中には「がん」になってしまうものもあります。「がん」になりえる疾患として、以前は「前癌病変・前癌状態」という名前で呼ばれていましたが、2017年WHO(世界保健機関)により、口腔潜在性悪性疾患(Oral potentially malignant disorders:OPMD)と名称が統一されました。日本において頻度が高く、重要なものとしては、白板症(癌化率約5%、粘膜が白色に変化)、紅板症(癌化率50%以上、粘膜が赤色に変化)、扁平苔癬(癌化率約1%、粘膜がレース状の白斑変化)といったものが挙げられます。

市民公開講座当日は口腔粘膜の健康診断も実施されました。皆さんも、口の中が何か変だな?と感じたら、お早めにかかりつけの歯科医院での受診をお勧めします。

市民公開講座当日は口腔粘膜の健康診断も実施されました。皆さんも、口の中が何か変だな?と感じたら、お早めにかかりつけの歯科医院での受診をお勧めします。

市民公開講座当日は口腔粘膜の健康診断も実施されました。皆さんも、口の中が何か変だな?と感じたら、お早めにかかりつけの歯科医院での受診をお勧めします。

がんプロ市民公開講座

「患者支援センターを知っていますか?」

～病院の中での役割について、わかりやすくお伝えします～

本学では「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン」の一環として、市民公開講座「患者支援センターを知っていますか?」を10月7日(日)に開催しました。

講演会ではまず、患者支援センターの塩路有理副センター長が、「患者支援センターの役割」をテーマに講演しました。講演では、患者支援センター設立の経緯やがん相談支援センターを含めたセンターの役割について説明しました。

続いて、「『もしも…』～もしも、あなたが病気になったら… どんな支援を望みますか?～」と題し、当院腫瘍センター緩和ケアセンターの月山淑准教授及び患者支援センター職員による映像演劇を行いました。演劇では、がん患者さんやそのご家族が悩みを抱えたときに、患者支援センターとしてどういった支援ができるのかということ、仮想の太郎さん一家の物語を通して分かりや

すくお伝えしました。笑いあり涙ありの演劇に、来場者はとても熱心に聞き入ってくださいました。



講演する塩路副センター長

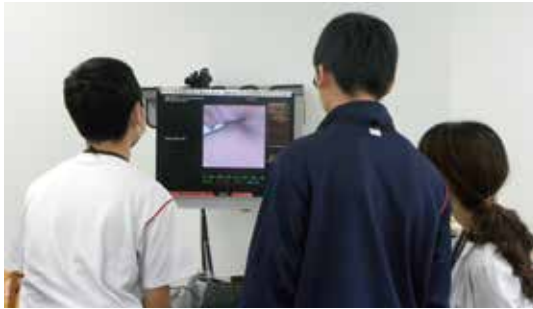


映像演劇の様子



中学生の職場体験学習

10月3日、4日の二日間、和歌山大学教育学部附属中学校の生徒3名の職場体験学習を受け入れました。生徒3名は、臨床検査技師や理学療法士、看護師などの仕事について、それぞれの部署で説明を受け、院内を見学しました。また、スキルスラボ(臨床技能研修センター)※の見学では、採血静注シミュレーターで実際に採血の練習をしたり、内視鏡シミュレーターでカメラの操作などを体験しました。



また、11月9日、10日には、和歌山信愛中学校の生徒4名の職場体験学習を実施し、ドクターヘリの見学や管理栄養士、薬剤師などの職業体験を行いました。参加された生徒の皆さんからは、後日、「患者さんに寄り添うことの大切さを感じた。」「改めて看護の仕事に就きたいという思いが強くなった。」など、医療の現場を体験した感想が綴られたお手紙をいただきました。



※スキルスラボ(臨床技能研修センター)とは…本学の学生、当院の研修医などの教職員、地域医療機関等の医療従事者の臨床技能の習得・向上及び安全管理の確立を図ることを目的に設置されています。基礎的手技研修室や外科的手技研修室などがあります。

教育研究開発センターでは、医学部生が問診や診察の仕方などを学ぶ際の模擬患者を務めてくださるボランティアを募集しています。詳細については、下記のメールアドレスまでお問い合わせください。

和歌山県立医科大学教育研究開発センター cerd@wakayama-med.ac.jp

がん患者・家族、県民のための公開講座

「わたし、若年性 乳がんでしたけど」

日時 平成31年2月11日(月・祝)
13:00~15:00 (受付12:30~)

場所 県立図書館 メディア・アートホール
(和歌山市西高松1-7-38)
※駐車場に限りがありますので公共交通機関をご利用ください。

講師 松 さや香氏
『彼女失格』『女子と乳がん』の著者
フリーランス広報・文筆家

入場無料
申込必要

お申し込み・お問い合わせ
患者支援センター
TEL 073-441-0778 FAX 073-441-0862

第9回

最新の医学・医療 カンファランスのお知らせ

日時 平成31年3月14日(木)
14:00~16:00

場所 和歌山県立医科大学図書館棟3階
生涯研修センター 研修室

演題 『障がい者スポーツと再生医療に
おけるリハビリテーション医学』ほか

リハビリテーション医学講座

講師 田島 文博教授 ほか

定員 県民100名

入場
無料



お問い合わせ
和歌山県立医科大学 生涯研修センター
TEL 073-441-0789 FAX 073-441-0713

予約センターからのお知らせ ～診察予約のご案内(初めて受診される方)～

当院の外来受診は、原則として「**予約制**」とさせていただきます。
ご予約は、できるだけかかりつけの医療機関などからFAXでお申し込みください。

■医療機関からのご予約

- ① **かかりつけの医療機関などから当院所定の「予約申込書」**にて患者支援センターにFAX送信してください。
- ② 20分以内を目途に予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関にFAX返信いたします。
- ③ 予約当日は、**予約票・紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

患者支援
センター

FAX番号: 073-441-0805
受付時間: 月・火・水・金 9:00～19:00
木 9:00～17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

■ご本人からのご予約

- ① **かかりつけの医療機関などで紹介状**をご用意ください。
※特定の医師による診療をご希望の場合は必ず「〇〇科 〇〇医師」と明記した紹介状をご用意ください。
- ② 「**当院予約センター**」に直接お電話ください。
- ③ 予約当日は、**紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

電話予約
センター

電話番号: 073-441-0489
受付時間: 月～金 8:30～16:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

※電話だけでなく9:30～17:00まで院内の予約窓口も開設しています。



「病院待合番号」アプリのインストールにより外来の待合番号モニターをスマートフォンでご覧いただけるようになりました。

アプリから当院を検索し、「待合番号モニター」を選択の上、診療科を選択いただくと、診察の順番を確認できます。ぜひご利用ください。



待合番号

検索



患者さんの権利

当院では、受診される皆様が、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

- 1 個人として尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
- 2 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
- 3 十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
- 4 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
- 5 個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

※当院では、患者さんの安全を守ることを第一に診療を行っておりますが、他の患者さんや職員への暴力・暴言・大声・威嚇などの迷惑行為があった場合は診察をお断りすることや退去を求めることがあります。著しい場合は警察に通報いたしますのでご了承ください。

患者さんへのお願い

当院では、さまざまな医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

- 1 適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話してください。
- 2 医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 3 治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
- 4 すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
- 5 当院は教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。